

生命歯学部・新潟生命歯学部 校友会・歯学会入会歓迎式・歓迎会開催！

3月7日生命歯学部 3月9日新潟生命歯学部



一度は伝統ある日本歯科大学校友会・歯学会に入会させていただくことになりました。父も定年を迎えるまで校友会・歯学会に所属しており、親子二代で伝統ある校友会・歯学会に入会したことを誠に光栄に思います。

先日は校友会・歯学会入会歓迎式・第107回卒業を祝う会を開催していただき、多くの先生にお越しいただきました。とても有意義な時間を過ごすことができ、心より感謝を申し上げます。私もこれからは校友会の一員として、そして日本歯科大学の名に恥じぬような歯科医師として、日々精進する所存でございます。来年度からは日本歯科大学附属病院で研修予定なので、この6年間で培ったことやこれから学んでいくことを糧にして、後輩達に伝統ある日本歯科大学の良さを伝えていければと思います。そして後輩達がしっかり受け継いで何年先も続いていければと願います。

最後に先生方には6年間お世話になり、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いたします。

生命歯学部 107回卒 勝海 伶一



第107回卒業生として校友会・歯学会に入会させていただきました。盛大に歓迎会を開催していただきありがとうございます。

故郷を離れ新潟での6年間は多くの方々に支えられて参りました。先生方はもちろん、部活を通しての先輩後輩、また辛い勉強を励まし合いながら一緒に乗り越えてきた友達とは卒業して離れてしまいましたが、校友会というペースで繋がっていることに有り難く、また心強く思います。伝統ある本学の校友会は災害時や非常事態時のサポート、女性歯科医の講演会等、多岐にわたり生涯を通して歯科医業を向上していける環境を作ってくださっていることにも感謝しております。卒業式での学長のお言葉にもありましたように強い者が生き残るのではなく、変化に対応できるものが生き残るということを肝に銘じこれからも歯科医師として人として研鑽を積んでいこうと思います。

新潟生命歯学部 107回卒 丸尾 瞳子



校友会からのご挨拶 愛・夢・絆

薄葉 博史

日本歯科大学校友会 常務理事



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして在校生の皆さんは勉学に励んでいることと思います。

皆さんはご家族からの温かい愛情に包まれ、育てられて入学されたことと思います。そして、歯科医師になるという夢と希望を持ち、それを具現化するために日本歯科大学へ入学されたことでしょう。それには努力が必要ですがそれを助けてくれるのが大学であり、大学の先生方です。校友会も様々な面で在校生の支援をしています。

同級生やクラブ活動、県人会を通じての新たな友達作りにも励んで学生生活をエンジョイしていただきたいです。

昨今、国の施策の変更により歯科医師への道は狭められていますが、おかしなことです。歯科医業を行う上での知識と技能があると認めただけが卒業でき、歯科医師国家試験の受験を受けることができます。本来は資格試験のほずであったものが選抜試験となっています。

歯科界のトップランナーとして今年創立112年を迎える日本歯科大学には、同窓の組織として長い歴史と諸先輩方の努力によって作られた歯科界でも数少ない校友会があり、全国津々浦々にも校友会組織があります。大学を卒業後に歯科医師として同じ道を歩む皆さんを育むのは大学であり、校友の諸先輩であると思います。校友は固い絆で結ばれて、友情と愛情を持って皆さんを支え続けていきます。

学術フォーラム 2018 開催される



平成30年2月25日(日)に東京マラソンで日本新記録が達成されるなかで、学術フォーラム2018が生命歯学部で開催されました。参加者は全国の校友会会員を中心に162名が参加し、昨年と同様で研修生の増加が目立ちました。講演が6題、ランチョンセミナーが2題、テーブルクリニックが3題とポスターセッションの6題が行われ、特に「リグロス」関連の講演は満席となりました。

終了後の学術担当役員の感想は「多くの先生方に参加していただき感謝しています。来年の学術フォーラムも関心の高い演題を用意したいと思います」でありました。

※学術フォーラムの写真は校友会ホームページをご覧ください

❄️ 平成 29 年度日本歯科大学歯学会 第 4 回ウインターミーティング開催 ❄️

平成29年12月9日(土)11時30分より本学九段ホールとメモリアルホールにて第4回ウインターミーティングが開催されました。

ウインターミーティングは臨床にフォーカスを合わせた内容で行われるのが特徴で、午前の口頭発表では九段ホールにて柳下寿郎教授座長のもと「歯槽骨吸収した下顎前歯先天性欠如部へ矯正治療による歯の移動を行った1症例」、「頬粘膜部に生じた顆粒細胞腫1例の病理組織学的検討」、「舌下面部に生じた血管内筋膜炎の1例」の講演がありました。

また午後1時30分から4時まで九段ホールにてシンポジウムが行われ、苅部洋行教授、田中聖至准教授座長のもとメインテーマ「さあ、どうしよう? 対応に困る患者さんたち」で1. Difficult patientに対する対応法(岡田智雄教授) 2. 命の門番・ゲートキーパー(石井隆資准教授) 3. 精神疾患と歯科の問題の関わり3つの形態~その違いと対応方法~(大津光寛准教授) 4. 特別な対応が必要な子供たち(田中聖至准教授)の講演が行われました。

口頭発表、シンポジウムとも受講者は熱心に聴講し活発な質疑応答がなされました。

また同時開催としてメモリアルホールにてポスター発表と6社の企業展示があり、ポスター発表では生命歯学部から13題、新潟生命歯学部から8題の21題が掲示され、その内英文発表が4題、生命歯学部衛生学講座と生命歯学部4年生と3年生の共同発表2題、新潟生命歯学部微生物学講座と2年生と1年生の共同発表1

題があり会場には多くの参加者で賑わっていました。

このウインターミーティングは、校友会・歯学会会員そして両学部学生も無料で聴講できます。またポスター発表することもできますので、ぜひ参加してみてください。



冬季デンタル情報



第 50 回全国歯科学生総合体育大会

1968年に第1回大会が開催された歯学体は、今年で第50回を迎えました。スキー部門は平成30年3月7日~3月11日ほおのきスキー場(岐阜県高山市)、ラグビー・フットボール部門は、平成29年12月28日~29日、日大松戸グラウンド(千葉県松戸市)にて熱戦が繰り広げられ、本学生命歯学部ラグビー部が準優勝(写真左)、新潟生命歯学部スキー部(1年生 山崎佑花子さん 女子個人総合2位、5年生 中島 創君 男子個人総合3位)が準優勝(写真右)を飾りました。



同級生が むすぶ絆

副学長
生命歯学部発生・再生医学講座
教授
中原 貴 (88回)



2018年1月28日、生命歯学部88回卒の有志が企画・運営を行い、同級生50名以上を集めて、昨年4月に就任した副学長のお祝い会を催してくれました。普段からさまざまな会に出席しますが、今回はひと味違うリラックスした会になりました。

会の冒頭、記念講演として20分ほどスライドを用いて、大学の近況について紹介しました。今年で卒後20年目を迎えた同級生たちにとっ

て、本学が一昨年に110周年、昨年には附属病院駅前開設30周年の節目を迎えたことは、あらためて驚嘆する事実でした。また、在学中の20年前とは一変した現在の富士見、そしていまだに複数の都市再開発を控える飯田橋界隈の活況には目を見張るばかりです。

時おり笑いどよめきが生じた講演会は、本学のお膝元である飯田橋が、“東京のへそ”に相応しい地の利をえていることにあわせて、本学が優に一世紀を越えて卒業生を輩出してきた歴史と伝統を再認識させました。

つづく懇親会では、お酒と料理に舌鼓を打ちながら、旧交の輪が広がりました。「たか(私のこと)がこんなに人前で話すようになるなんて想像できなかった(註：私は生来シャイです)」、「むかし聞いたときよりも今日の話し方のほうが上手くなった」、「出

世するとは思ってたけど、早過ぎじゃね!?!」など、いつもの懇親会では聞けない異色の会話が盛んに交わされました。

ホテルでの一次会のあと居酒屋で催された二次会では、さらに輪をかけてざっくばらんになり、ココには書けないような話がオモチャ箱をひっくり返したように飛び出しました。酒が回ってみんなもう、前後不覚です(笑)。このような気の置けない飲み会もまた、同期が集まった良さでしょう。

在校生のみなさんにとっても、いま隣りにいる親友、そして同じ講堂で学ぶ同級生は、何ものにも代えがたい一生の宝になると思います。無事に卒業を迎えれば、同級生たちは全国各地に巣立っていきます。けれども、学生時代に温めた親交は、やがて強い絆へと変わるはず。いま同じ時間を共有する仲間たちを大切に、お互いに助け合いながら目標を達成しましょう。

アンサンブル部 ロビーコンサート



アンサンブル部による、クリスマスロビーコンサートが昨年12月25日、春のロビーコンサートが今年3月8日に、附属病院1階ロビーで開催されました。次回のロビーコンサートは8月上旬を予定しております。



国家試験体験記

私は昨年2月の歯科医師国家試験を受験し、現在日本歯科大学新潟病院で臨床研修医として日々働いています。これから国家試験を経て、歯科医師となる皆さんに私の受験生活での経験を元にしたアドバイスが少しでも力になればと思います。私が国家試験を意識して勉強を始めたのは、正直5年生後期からです。安心してください。成績は学年でも下位の方で、このままでは受からないと思っていたこともありましたが、それには本当に単純ですが、授業を聞いて、その日の内に時間を決めて復習することです。時間を決めてやるのがポイントです。授業や復習してわからない所は先生に質問して、ポイントをノートにまとめて模試や試験の前には確認する。また、問題集や過去問

でわからないところはまず教科書を調べ、自分のノートを見て、確認してそれでもわからないなら、質問してノートにまとめる。それを常に繰り返し、繰り返し行います。そうしていくと自分の弱点がわかり、重点的にその教科を勉強して弱点を克服できるのです。よくノートを作った方がいいとアドバイスをもらっていますが、早いタイミングから作り始め、必ず見直すことが大切だと思います。ここまで自分の勉強法について書きましたが、勉強方法は人それぞれだと思います。一番大事なのは、自分の勉強法を見つけ自分を信じて、ひたすら勉強していくことだと思います。国試合格に向けて頑張ってください。応援しています。



新潟病院
臨床研修歯科医
神元 和繁
(106回)

Enjoy
KOYU Times!



神奈川県人会開催の報告

平成30年2月3日(土)、横浜中華街にある『ローホテル横浜』にて神奈川県日本歯科大学校友会の新年会が開催されました。総合試験やCBTといった試験を控えながらも学年を超え多くの学生が出席し、先生方とともに楽しくそして大変有意義な時間を過ごしました。開会前は先生方と学生でテーブルが分かれており、どこか緊張していた学生の面々も、乾杯を終るといつの間にか先生方とも談笑している様子が会場のいたる所で見られました。

神奈川県人会は堅苦しさがなく陽気で楽し

く、後輩である我々学生思いの優しい先生方に恵まれた、とても温かく素敵な会です。そして学生間でもこの場をきっかけに学年や部を超えた交流があります。神奈川県出身なのにこのような機会を知らずに過ごすのは本当にもったいないです。今後より多くの学生の皆さんが参加され、神奈川県人会が益々盛り上がることを心から願っております。

生命歯学部 3年 大久保 領太



図書館からの推薦図書

東京

医学の歴史大図鑑

スティーヴ・バーカー監修 酒井シズ日本語版監修
(原題: Medicine: the definitive illustrated history)

出版社: 河出書房新社 出版年: 2017/10

請求記号: WZ.17 P243

登録番号: 100036091

5万年前のネアンデルタール人の歯の化石、古代の薬草治療と始まり、ロボット手術・ナノ医療・幹細胞治療など現代の最先端医療へと豊富なカラー図版550点でたどる医学の年代記です。当時の流行病や治療法などのトピックだけではなく、その当時活躍した人々や名言の紹介もあります。顕微鏡や麻酔装置など進化する道具のイラストを見るだけでも楽しくなる一冊です。サイズは大きめですが、手に持って読める図書です。

新潟

怖いくらい通じるカタカナ英語の法則 (ブルーバックスB1987)

著者: 池谷裕二

出版社: 講談社 出版年: 2016

請求記号: 408-K-B1987

登録番号: 000136496

日本語の音にカスタマイズされてしまった大人の脳ではネイティブ発音は至難の業。それならと脳科学者の著者が考えたのが「英語→カタカナ変換」例えば、「Good morning」は「グッモーン」 「How are you?」は「ハオユ?」など。ネット対応版なので、ぜひ確かめてみてください。

KOYU Quiz Q. 次の局部床義歯は、○○義歯というのでしょうか?

コーヌステレスコープをはじめとするテレスコープシステムのひとつである。この義歯の維持は、門構造の回転式または旋回式の維持装置からなり、着脱時、支台歯への維持力の負担が少ない。また、内冠を連結することで支台歯の一次固定が可能である。審美性が高く、インプラントとの併用が可能で適応範囲が広いことから、ドイツでは現在も多く用いられている義歯である。



照鏡ニ一ニヤレテ、クニ：ニ景のクニDニルヨク

診療室での物語

カルテ No.19

歯科医師としての展望



医療法人誠歯会
マスタダ歯科医院
武内 一広
(101回)

元々歯科医師を目指したのは両親の影響が非常に大きい。

父は医療関係の職業ではないが、母は歯科衛生士である。そのおかげで、幼い時から父の後を継ぐのか、歯科医師を目指すのかどちらかという道ができていた。

幸い、大学受験はなんと突突破ることができたので、晴れて歯科医師になるための一歩を踏み出すことができた。

大学の6年間は思い出が多い。大学生活でいえば同じカリキュラムで学んだことで学生の一体感があった。

大学に入学したものの、口腔内というものはまだまだ身近ではなく、座学として学んでも、あまり実感がわかなかった。自分が患者として治療を受けたことはあったが、実際に臨床実習生として日々勤務してみると全く勝手がわからず、大変だった思いをしたことを覚えている。そんな時は配属された総

合診療科のUGであった代田先生に大いに助けてもらった。もちろん6年生になると、教室全体が国家試験一色となり皆で励ましあって勉強していた。いくら勉強しても頭のどこには不安が残って、合格発表を迎えるまでは緊張したことをとてもよく覚えている。

大学でラグビー部に入学したが、いろいろな環境の変化で一度やめたことがある。ただ部活をやめたからといって、例えば勉強やアルバイトに多くの時間をかけて頑張ることは少なかった。そんな状況が2年ほどあり、ラグビー部に入らないかと言葉をかけてもらう縁があり、再度復帰をさせてもらった。

歯科大学に入った限りは歯科医師になれるように生活をしていく必要はあると思う。

現在国家試験の合格率が下がっており、私が受験した時よりも合格率はさらに下がっている。合格しなければならぬけれど、決して国家試験に合格することがゴールではなく、歯科医師になってからの人生の方が長くなるので、大学生活の中で多くの友人や先輩、後輩ができる部活にもう一度参加させてもらったことは今の自分にとってかけがえのないものである。最近では部活に所属する学生も少なくなっているため、せっかくの学生生活をいろんな角度から楽しんでもらいたい。

緊張の合格発表を終えて、いよいよ臨床研修が始まることとなった。臨床

研修施設は日本歯科大学附属病院の協力型長期プログラムを選択していた。臨床研修を通して、担当医として患者と向き合い、治療計画の立案、口腔衛生指導から、う蝕治療、歯周病治療、補綴治療まで多くのことを研修生活の中で経験させてもらった。今があるのは本当にその当時ご指導いただいたものが大きい。

その後の進路は昭和大学歯科病院地域連携歯科、さいたま市の一般開業医に勤務することになった。2年目から3年目、3年目から4年目へと現場で働くに連れて、今までよりも少しずつ手が動くようになり、また患者とのコミュニケーションもとれるようになってきた。ただまだ一つのことしか見えず、多くの失敗をした。

3年目ぐらいになると自分が最初から最後まで治療を完了した患者がメンテナンスに来院されることが徐々に増えてきた。来院され、口腔内をチェックすると治療の未熟さが理解できた。CRの研磨不足、補綴物のマージンの過不足など、なぜその部位を治療している時に気づけなかったのかということもあった。患者の口腔内の状態がよく、大きな問題とはなっていないことが、説明し、再度治療をさせてもらうことが多かった。

6年目の現在、視野を広く持つこと、1口腔単位の治療を心がけることを意識している。多くの高齢者の方も来院

され、全身的な疾患を患っていることが多い。そういった方に限らずではあるが、治療を開始する以前に把握しておかなければいけないことも多い。もちろん治療に対する患者の希望や思いも含めてラポールの形成が必要で、これらを無視して進めることは難しい。歯科治療は繰り返して説明をしてもなかなか患者に理解してもらえない。患者本人を含めて、治療に関わる人が同じ方向を向いて治療を進めていかないと、良い治療と自信を持っていても、治療が終わってみると思っていたものと違う結果になってしまう。今、理想としていることは、歯科医師の治療=患者の体にきずあとが残ることなので、最小限の治療と最大限の予防をどのように実現させていくかということを考えている。

これまででは、経験も浅く、治療に関して学ぶことが多かったが、今現在は独立開業を目指して必要な情報を勉強中である。

大学時代の友人は今でも連絡を取り合い、また卒業してからは、一人一人の歯科医師として意識していける良い存在である。臨床に対する思いや、技術的な話をするのがとても刺激になる。

また卒業後ラグビー部の役員会に入っていたら、部活に参加できていることは嬉しい。

最後にまだまだ若輩者の私に寄稿の機会をくださった校友会の方々に感謝申し上げます。

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で

